

## 21. $^{99m}\text{Tc}$ -DMSA における Interrenicular Septum の描出についての検討

塚本江利子 伊藤 和夫 鐘ヶ江香久子  
加藤千恵次 (北大・核)

Interrenicular Septum (IRS) は、腎臓が 2 個の小さな腎臓 (Reniculus) の癒合によってできたとする考え方に基づいており、この Reniculus の間の腎前上部から後下部に走る隔壁をいう。これが  $^{99m}\text{Tc}$ -DMSA におい

て描出されるのかを検討したところ、小児 104 例のうち 33 例 (31.7%) に IRS と思われる線状の欠損を認めた。この欠損の描出頻度は VUR の有無と有意な関係がなかった。また、前上部に多くみられ、体軸に対しての coronal 像ではよく描出されたが、腎に対しての coronal 像では半数が不明瞭になり、planar 像で描出されたものはなかった。瘢痕との鑑別が困難な症例もあるが、IRS の存在を知ることは、無用の偽陽性を防ぐ意味で重要と思われた。